

ほったさとこ

いのち編 No.2 ヨーニ!

AWAHULAが運んできた、きさらちゅんへの祝福



「わたしたちは神話を生きている」と以前から語っていたきさらみえさん（以下、きさらちゅん）。わたしのフラシスターでもある彼女が、江の島で「響き愛 いのち The Gathering as ONE spring, 2014 ~手をつなげばあたたかい~」（以下、響き愛）という集いを仲間とともに開催しました。

2011.3.11東日本大震災から3年めの3月15日。響き愛ナビゲーターとして、オープニングは松尾慧さんの笛。えびはらよしえさんのうたに山元加津子さんのスペシャルなお話もありましたが、今回のヨーニ!はこの日に初披露されたAWAHULAと、はじめてHulaの振付をしたきさらちゅんについて。

AWAHULAはいにしえの言霊「あわうた」の存在からはじまります。そもそも、あわうたとはなんでしょう。「あかはなま」ではじまり「しんたらさやわ」でおわる48の音。縄文以前に編まれた音が、一番よいめぐりに並んでいるそうです。響き愛の運営メンバー・AWA Hammingbirdの早川須美子さんは10年以上前にあわうたと出会っています。このうたを口にすると、身心が整い、タマシイも整い、宇宙の法則と情報をキャッチできる動く柱になる。このことを深く理解し受け取っていくなかで、曲も降りてきていました。

2014年が明けてまもなく、須美子さんからきさらちゅんに1本の電話。「きさらちゅんに振りをつけてほしい」。

響き愛のサブタイトルは「The Gathering as ONE」。<太古のふるさとのうた、あわうたの記憶を、わたしたちは身体に持っています。あめつちのあいだに、“いのちの尊さ”の柱をしっかりと立て、自立し、愛と調和に向けていのち響きあいたい>。これが響き愛を開催する目的でした。

須美子さんの曲をえびはらよしえさんが編曲し歌い、AWA Hammingbirdの平岡珠恵



さんと共にHulaの振りを付け伝えてきたのがAWAHULA。きさらちゅんは大きなお仕事を賜りました。珠恵さんからの「響き合うには、ひとりひとりが立たなくてはいけない」という言葉でがんばれたそう。あわうたの一つ一つのオトを感じ、意味を身体にいれ、そこから踊って見たら、自分の中から振りが出てきました。

きさらちゅんはハワイ島のクムフラ（フラの師）・ケアラ・チンの生徒となり8年。ケアラさんは富士山や江の島、日本各地に捧げるカヒコ（古典フラ）も創ってくださり、ハラウ（学校）ではなく、ハワイの伝統や文化の教育財団NaWailwiOlaを主宰しておられる異色のクムフラ。彼女もクムについてハワイの聖地を巡り、神話を聞き、チャントとフラを捧げました。母なる日本列島の聖山MaunaFuji（富士山）とつながるHulaワークショップも続けて開催。いまはNWIO-JapanEastでレッスンを受けています。

響き愛ではAWAHULAを踊るため、練習会を1ヶ月で8回も開催。30名を超えるAWAHULAシスターズが誕生しました。フラ経験や上手さは問わず、AWAHULAを踊りたい、響きあいたい人が気持ちを持って集合。開催場所も流れの中で用意され、練習代は無償。きさらちゅんは日本の神々、Hulaの女神さまからの賜り物として、Hulaや振りを伝えていました。

わたしも練習会に参加させていただきました。Hulaを離れて5年。カウアイ島のクムフラがおっしゃった「Hula is life」という言葉は刻み込まれているけれど、ひさしぶり過ぎるHula。でも須美子さんから、あわうたの説明を聞き、うたい、振りやステップを教してもらいながら踊ると、振りのつらなりが自然でとっても心地いい。わたしに残っていたフラの記憶が大喜びです。AWAHULAをからだは理解し、親しく感じていました。まわりのみなさんも、よろこびに満ち溢れた顔ばかり。これがあわうたとHulaのちから。

あわうたとハワイのHula。どちらも古くから伝承されてきたいのりです。継いでいく、つないでいくには厳しさもともなう。そこに踏み入ってフタを開け、江の島で舞うことは、おおきなエネルギーを動かします。それでもそこを目指す気持ちがありました。

響き愛の準備を進める中、ケアラさんのト

レッスン日の変更。響き愛とパツティングする事態に。フラの道の曲期にいたその頃のきさらちゅんには胸の引き裂かれる思いです。でも新年の初レッスンで今まで受け取った主たる曲を5時間かけてすべて踊る、という体験から気持ちがリセット。「分離」から「融合」へ意識が変化しました。そうすると現実が動きます。トレーニング会場は響き愛と同じ場所、部屋は隣同士に。笑えるくらいのシフトチェンジがやってきた。

当日、ケアラさんは響き愛にお出でになり、その場で降りてきたチャントを唱え、イリイリ（石を用いるカヒコ）のHulaを踊り、祝福してくださいました。後日、その時のチャントとHulaについてケアラさんにお尋ねしたところ、「天から降る雨が大地を潤すように、わたしたちも天のめぐみを地球の上で生きている。それを表現したもので言葉にするのは難しく、したくはない」とのお返事。カヒコで最後に唱えた言葉はE Ola O Ka Lani（この世の天国）でした。

きさらちゅんにとって、この流れ、この日の出来事は「フラ道の完結編」といえるくらいの本望。フラを辞めちゃってもいいくらいの満足度だったことでしょうか。ケアラさんの財団Na Wai Iwi Olaは「太古の智慧を生きる」の意。直訳すると「骨髄を流れる水」。私たちの身体が持ついにしえのデータもそこにある。パズルを嵌めるように賜り物の連続だったAWAHULA。当日、AWAHULAシスターズはよろこびの中で、AWA Hammingbirdの金澤みゆきさんも演奏！のウクレレ隊による音色で舞いました。AWAHULAシスターズの打ち上げでは「自分の人生のハイライトになるような体験」という声が多かったそう。

「わたしたちは神話を生きている」ってほんとうだった～！そして今回はきさらちゅんに光があたったけれど、だれしもが起こせること、起きること。

いにしえの言霊を身体をつかって響かせるAWAHULA、いまも歴然とちからを持っています。あちこちからAWAHULAをシェアしたい、シェアしてほしいと声があがり、よいかたちを検討しているそう。ゆっくりと、ひとつような場所で、真摯に、たいせつに、すすんでいきますように。

響き愛について、うつくしくAWAHULAシスターズ！ 撮影：佐藤雅志